



ほりのうち りきそう
堀之内 力三 さん (43)

宮之城屋地区出身。高校から始めたレスリングで3年時には国体にも出場。警備会社に就職するも、平成16年に父親が急逝し家業を継ぐ。「19歳の焼酎プロジェクト」や「さつまめまちゼミ」、松尾神社の復興に向けた取組、ラジオのMCなど、活動は多岐にわたる。



酒店
×
堀之内
力三

▼昭和23年創業の老舗酒屋、堀之内酒店。店内には焼酎や日本酒、ワインなどの様々な酒が整然と並んでいます。朗らかな笑顔で接客するのが3代目の店主、堀之内力三さんです。急逝した父に代わり、平成16年から家業を継ぎました。

▼堀之内さんは継いだ当時を「焼酎ブームの中、焼酎が手に入らず売れるものがありました」と振り返ります。どうかしようと思ひ返り、小牧醸造での焼酎造りの中で、表面だけでは分からない造り手や農家など関わる人の想いを学びました。「お酒一本に多くの人が関わっていることを、もっと知ってほしいと思うようになりまし」と話します。それから酒に携わる多くの人と出会い、信頼関係を築いた堀之内さん。現在は多くの銘柄が並ぶ棚を「17年かけてできた仲間」と表現します。

▼堀之内酒店は「ラベルの向う側に語りたくなる味がある。」がコンセプト。単に酒を売るだけでなく、造り手や農家の想いも伝えてきました。その方法は接客だけでなく、SNSやホームページ、堀之内酒店新聞と題した手作りのチラシとさまざま。令和3年には経営が革新的であると評価され、優良経営食料品小売店等表彰事業で日本経済新聞社賞を受賞しました。

▼現在、堀之内さんが多くの事業者などを巻き込んで取り組んでいるのが、町の地域ブランドの確立です。「農協さんが『薩摩のさつま』というコピーを打ち出したとき、とても良い言葉だなと感じました」全国に通用する一つのブランドを作りたいと言いつづけた堀之内さん。その夢は、農協、商工会、観光特産品協会、役場、そして様々な事業者を巻き込み、月に一度集まってブランド化する商品を生み出すとしていきます。「人前で話すのは苦手」と話す堀之内さんですが、その熱意は立場や業種を越えて伝わり、一つの大きな夢に向かって進んでいます。



毎月発行している堀之内酒店新聞。店主が書く言葉から酒の魅力が伝わります。



オンラインで教える焼酎のお湯割り講座。台湾の旅行会社に向けて説明しました。

初春に新成人143人が集う 町成人式を開催

1月4日、宮之城文化センターで行われた成人式に新成人143人が参加しました。式では、新成人の抱負を書いた写真や中学生時代の写真が映し出され、懐かしい姿に歓声が上がりました。実行委員長の原之藪大輝さんが「人生の節目である今日を迎えられたのは、どんなときも両親や家族、友人、恩師の先生方がそばで見守り支えてくれたおかげです」と謝辞を述べました。また、14人の新成人が実行委員として準備や運営で役割を担い、式を盛り上げました。



新成人が焼酎造りを通してふるさとを学ぶ

新成人が地元の酒店や蔵元の協力をもらい「19歳の焼酎プロジェクト」で造った焼酎を成人式で披露しました。サツマイモの収穫や焼酎の仕込み作業、ラベルデザインなどを行い、最後は苗を植えて翌年の新成人になく取組で、今回で8回目。焼酎造りにふれることで故郷の焼酎文化を学び、地元の人々との出会いや交流、酒をたしなむルールを身に付けることを目的としています。完成した焼酎は、町のシンボルであるホテルと、華やかな人生を歩みたいという願いを込めて「蛍華」と名付けました。この取組に対する問い合わせは、社会教育課社会教育係または堀之内酒店まで。

焼酎「蛍華」を
読者へプレゼント!
※応募方法は19ページ

